



# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2017 January to March vol.193

新春特集陳列

とりづくし

— 干支を愛でる —

特集陳列

生誕300年 伊藤若冲

特集陳列

皇室の御寺 泉涌寺

特集陳列

雛まつりと人形

開館一二〇周年記念 特別展覧会

海北友松

かいほうゆうしよ

京都国立博物館

だより

二〇一七年

一・二・三月号

新春特集陳列

とりづくし

千支を愛でる

平成28年12月13日(火)〜平成29年1月15日(日) 平成知新館(2F・1・E)

京都国立博物館は平成二十九年(二〇一七)、開館二〇周年を迎えます。その千支は酉。この記念すべき年の幕開けを、色鮮やかな羽をまとう個性的で美しい鳥たちと一緒に迎えてみませんか。鳥たちはその種類ごとにさまざまな吉祥の意味をもち合わせています。千支の動物である鶏は、夜明けを告げ時を知らせる鳥として古くより尊ばれました。我が国でも「古事記」において、天の岩屋戸に隠れた天照大神を誘い出す常世長鳴鳥として登場し、世界に太陽を出現させたという霊的な役割を与えられています。また「韓詩外伝」には「文・武・勇・仁・信」の五徳を備えること記されます。すなわち頭に冠を戴く「文」、蹴爪をもつ「武」、敵と果敢に闘う「勇」、食を見て仲間を呼ぶ「仁」、そして夜を守り必ず朝を知らせる「信」であり、人間にとっても理想的なあり方とみなされました。

そのほか、たとえば鶴は千歳の長寿をもつ瑞鳥として和歌に多く詠まれ、今でも「鶴は千年、亀は万年」というフレーズで親しまれています。また、四靈のひとつである鳳凰は、中国において名君の治世下に飛来するという伝説上の鳥で、泰平と繁華を表すその姿は日本でも重要視されました。こうしたそれぞれの意味を象徴する鳥類は、東洋の美術工芸品における主要なテーマとして造形されてつづけることとなりました。しばしば花木と組み合わせられてデザインされ、とくに絵画では中国唐・五代ごろに「人物」「山水」と並んで「花鳥画」という一大ジャンルが形成されます。日本でも正倉院宝物に見られるような花鳥文様の美術品、中近世の花鳥画などが伝来制作され、その歴史を豊かに彩ってきました。本展示では、石見益田家の襷袢祝いに描かれたとも伝わる雪舟(一四二〇〜一五〇六)の重要文化財「四季花鳥図屏風」をはじめとする花鳥画の名品佳品や、ユニークな魅力たっぷりの工芸品の数々をご紹介します。とくに「百鳥文様打掛」は表背面や内側にほんとうに百種百羽の鳥を配した着物で、お正月らしい豪華で鮮やかな作品です。ほかにも、陶磁や金工など、素材によって異なる質感や表情を見せてくれる鳥たちが皆さんをお待ちしています。

ぜひ、鳥たちが飛翔する新年の祝祭にお越しください。さまざまな時代・地域の作品から、皆さんのお気に入りの一羽を見つけていただきたいと思います。



重要文化財 四季花鳥図屏風 雪舟筆 京都国立博物館



白梅群鶴図 狩野永良筆 京都国立博物館



大観小鶏図 奇白石筆 京都国立博物館



百鳥文様打掛 京都国立博物館



色絵花鳥文圖 京都国立博物館



玳瑁天目 京都国立博物館



重要文化財 伎楽面 京都国立博物館



重要文化財 十二類絵巻 中巻(部分)

平成知新館 名品ギャラリー

3F-1 陶磁
【日本と東洋のやきもの】
平成29年1月17日(火)〜3月12日(日)
\*12月13日〜平成29年1月15日は休室

3F-2 考古
【日本出土の考古遺物】
平成29年1月17日(火)〜3月12日(日)
\*12月13日〜平成29年1月15日は休室

2F-1 絵巻
【新春特集陳列】
とりづくし「千支を愛でる」
12月13日(火)〜平成29年1月16日(日)
【ふたつの遊行上人縁起絵】
1月17日(火)〜3月19日(日)
【姫のすがたと物語絵巻】
2月21日(火)〜3月20日(月・祝)
2F-2 仏画
【新春特集陳列】
とりづくし「千支を愛でる」
12月13日(火)〜平成29年1月16日(日)
【弘涅槃図】
1月17日(火)〜3月19日(日)
【日本の羅漢図】
2月21日(火)〜3月20日(月・祝)
2F-3 中世絵画
【特集陳列 生誕300年 伊藤若冲】
12月13日(火)〜平成29年1月16日(日)
【瀟湘八景図】
1月17日(火)〜3月19日(日)
【初期狩野派】
2月21日(火)〜3月20日(月・祝)
2F-4 近世絵画
【特集陳列 生誕300年 伊藤若冲】
12月13日(火)〜平成29年1月16日(日)
【須磨コレクションの嶺南派絵画】
1月17日(火)〜3月19日(日)
【中国の墨竹図】
2月21日(火)〜3月20日(月・祝)
1F-1 彫刻
【神像と獅子・狛犬/日本の彫刻】
12月13日(火)〜平成29年2月19日(日)
【特別公開 修理完成記念 鳥取・三佛寺の蔵王権現立像】
1月17日(火)〜3月12日(日)
\*2月21日(火)〜3月20日(月・祝)は休室

2F-5 中国絵画
【特集陳列 生誕300年 伊藤若冲】
12月13日(火)〜平成29年1月16日(日)
【須磨コレクションの嶺南派絵画】
1月17日(火)〜3月19日(日)
【中国の墨竹図】
2月21日(火)〜3月20日(月・祝)
1F-1 彫刻
【神像と獅子・狛犬/日本の彫刻】
12月13日(火)〜平成29年2月19日(日)
【特別公開 修理完成記念 鳥取・三佛寺の蔵王権現立像】
1月17日(火)〜3月12日(日)
\*2月21日(火)〜3月20日(月・祝)は休室
2F-1 特別展示室
【特集陳列 皇室の御寺 泉涌寺】
12月13日(火)〜平成29年2月5日(日)
【特集陳列 雛まつりと人形】
2月18日(土)〜3月20日(月・祝)
1F-3 書籍
【特集陳列 皇室の御寺 泉涌寺】
12月13日(火)〜平成29年2月5日(日)
【中世の古写経】
2月7日(火)〜3月12日(日)
1F-4 染織
【染めと織りの色 金と銀】
12月13日(火)〜平成29年1月29日(日)
【友禅染】
2月1日(水)〜3月12日(日)
1F-5 金工
【大航海時代と日本の時絵】
12月13日(火)〜平成29年1月22日(日)
【香りの調度】
1月24日(火)〜3月12日(日)

特集陳列

生誕三〇〇年 伊藤若冲

平成28年12月13日(火)〜平成29年1月15日(日) 平成知新館(2F・1・3・5)

平成二十八年(二〇一六)に生誕三百年を迎えた伊藤若冲(一七一六〜一八〇〇)の特集陳列を開催いたします。

若冲は、錦高倉青物市場に店を構えていた青物問屋・酒屋の四代目として生まれ育った生粋の京都人です。市場屈指の店を継いだ若冲にとって、絵画制作はなんと強いられるところのない、まったくの趣味といってもよいものでしたが、その飽くなき表現の探求はおのずと市中の評判を呼び、やがて当代きつての売れっ子画家としてその名を馳せました。当時の文化人名録というべき「平安人物志」に、「筆頭の田山術拳に次いで若冲の名が挙げられていることから、その人気ぶりがうかがわれています。古今の絵画作品に学ぶだけでなく、自らの目で対象を見る、ということを大切にされた若冲は、身近な花や鳥を題材にした作品を多く描きましたが、とりわけ鶏はその代名詞ともいえる得意画題でした。庭に鶏を飼い日々観察を重ねることで、いつしか自在にその姿を描くことができるようになったと伝えられています。若い頃から最晩年にかけて、常に描き続けた鶏を見ていると、年を追うごとに表現を変化させていく様子がよくわかります。そんな画家の軌跡をたどることができるのも、ワンマンショーの大きな魅力といえるでしょう。

一方で、若冲は少ないながら人物モチーフや山水図なども手掛けており、そこには花鳥画の華やかさとはまたく別種の軽妙さを見ることが出来ます。「天歌仙図押絵貼屏風」は、大がかりな人物描写と諧謔味あふれる表情が魅力的な、本邦初公開の大作です。さらに、担当者イチオシの「蝦蟇河豚相撲図」には、生真面目なキャラクターが想像されがちな若冲の、思いがけないほどユーモアに満ちた一面を見ることが出来ます。近年、隠居後もしつばは家業のために奔走していたことが明らかとなった若冲、その魅力と人気はもはやとまらぬ所を知ります。生誕三百年を迎え各地で大規模展が開催されますが、本展ではそこで展示されない作品をまじえながら、知新館の三部屋を若冲で埋め尽くします。「若冲って誰?」という方もわかりやすくその魅力を伝え、しかも目の肥えた若冲ファンをもうならせたい。そんなやさか無謀なたくらみが、こっそりと秘められた展覧会です。二〇一六年春の東京都美術館、秋の京都市美術館でお腹一杯という方も、冬の京都国立博物館に是非お越しください。若冲はきっと別腹ですから。(福土雄也)



四季花鳥図押絵貼屏風 伊藤若冲筆



蝦蟇河豚相撲図 伊藤若冲筆



垣豆群鳥図 伊藤若冲筆



果蔬涅槃図 伊藤若冲筆 京都国立博物館

特別公開 修理完成記念

鳥取・三佛寺の蔵王権現立像

平成29年1月17日(火)〜2月17日(日) 平成知新館(1F・1)

鳥取県三朝町に位置する三徳山三佛寺は、奈良時代の慶雲三年(七〇六)に役行者によって開かれたと伝え、鳥取県を代表する古刹のひとつです。平安時代以降は天台寺院として整備され、山岳修験の聖地としてもよく知られています。平成二十七年には、三朝温泉とともに「六根清浄と六感治癒の地」として、日本遺産にも認定されました。

そそり立つ岩山に築かれた国宝・奥の院は投入堂として高く、かつてここには多くの蔵王権現が祀られていました。そのうち、正本尊一軀、脇本尊六軀の蔵王権現が、現在麓の宝物殿に安置されています。蔵王権現は役行者が感得したというもので、修験を象徴する尊像です。三佛寺の七軀の蔵王権現像は、いずれも国の重要文化財に指定されていますが、正本尊と脇本尊一軀の修理が、京都国立博物館内に設けられた文化財修理所にて今年度もなされました。その完成を記念して、脇本尊を京都国立博物館にて公開することになりました。

正本尊は大正時代におこなわれた修理時に、像内より仁安三年(一一八八)の紀年を持つ文書が発見され、その頃に造立されたと考えられるものですが、脇本尊六軀は、それよりもさかのぼった時期の作です。いずれも頭体の主要部分を「材から彫りだした、いわゆる一木造の力強い像です。本像はそのうちの一軀で、十〜十一世紀に製作されたと考えられるものです。蔵王権現は鎌倉時代以降も盛んに造像されますが、それらは右足を大きくあげた姿であらわれます。ところが本像はわずかに足を名残のだけ、蔵王権現の姿が定型化している前の古い時代の名残があります。ぜひともこの機会に、我が国の蔵王権現を代表する古例のひとつである同像をご覧いただき、山岳修験の世界に触れていただければ幸いです。(浅瀬 毅)



重要文化財 蔵王権現立像 鳥取・三佛寺

特集陳列

雛まつりと人形

平成29年2月18日(土)〜3月20日(月・祝) 平成知新館(1F・E)

太陽暦の三月三日は、まだまだ桃のつぼみも固く風も冷たいのですが、雛人形が飾られると、辺りはなぜか春めいた雰囲気に包まれます。本年もまた、京都国立博物館に春の訪れを告げる特別陳列「雛まつりと人形」の季節がめぐってきました。

いにしえの上巳の節供に起源をもつ雛まつりは、本来は三月のはじめに行われる「禊」の行事でした。この行事の中で用いられ、日常生活の中で人間につく穢れを引き受け、水に流すなどして廃棄された人形(ひとがた)が、女子のお人形遊びと結びつき、終には座敷に飾りつける雛人形や雛段へと発展していきまます。雛段は「江戸時代後期に豪華さを増していますが、江戸と上方では、大きく傾向が異なります。武家の都である江戸では、大名家の子女が座敷に幾層もの段を設え、人形とともに、姫君の婚礼調度をそっくりそのまま縮小した大揃いの雑道具を飾りつける段飾りが主流でした。一方、京阪を中心とする上方では、雛段は二段から三段程度と小規模ながら、雛人形がおさまる御殿とともに眺めるのが一般的でした。

この傾向は一部ではあるものの戦前まで続きますが、明治時代を迎えると、新しい趣向の雛人形や雛段が登場します。その最も顕著な例が、明治宮廷の洋装化をうけて製作された、洋装の雛人形でしょう。本年は、それらの中でも壮麗を極める、洋装の御殿飾り雛を展示いたします。個人からご寄託をうけているこの雛飾りは、椅子にかけた天皇と皇后を控御殿の上段に配し、その御殿へと、皇太子を乗せた馬車、騎兵隊、お及び商標から、明治二十四年に、京都を代表する雛人形師、丸平こと大木平蔵が納めたことが分かっています。



古今雛 京都国立博物館



立雛 次郎左衛門頭 京都国立博物館

特集陳列

皇室の御寺 泉涌寺

平成28年12月13日(火)〜平成29年2月5日(日) 平成知新館(1F・1・2・3・5)

京都・東山の地に壮大な伽藍をかまえる泉涌寺。寺名の由来は、伽藍を造営するさい、もともとと仙遊寺と名付けられていた境内の一角から清水が湧き出たことによるといわれています。いから八百ほどまえ、宇都宮信房から寺地の寄進を受けた俊仍(一一六六〜一二二七)により開創されました。

俊仍は、肥後国飽田郡(現、熊本県上益城郡)に生まれ、幼くして仏門に入りました。三十四歳となった建久十年(一一九九)、求法のため中国の宋に渡り、滞在すること十二年、天台山や雪竇山など各地をめぐる、律を中心に禪や天台をはじめ、さまざまな学問をおさめ帰国しました。宋の寺院を手本に建立された泉涌寺には、たとえば「楊貴妃観音像(重要文化財)」のように、俊仍、あるいはその弟子たちが中国からもたらした文物が数多く伝わっており、これは同寺の美術を語るうえでの大きな特色といえるでしょう。また、泉涌寺は「御寺の名が示すように、朝野の崇敬をうけるなかでもとりわけ皇室の菩提寺として篤い信仰を集めてまいりました。こうした皇室とのつながりは、後鳥羽上皇(一一八〇〜一二三九)の俊仍への帰依にはじまり、貞応三年(一二二四)には後堀河天皇の繪旨により御願寺となり、さらには四条天皇(一二三三〜一二四二)の葬礼が同寺で行われて以来より強くなったと考えられています。両者の関係を物語るように、現在、歴代天皇の遺愛品や肖像画を核に、関連する作品が豊富にのこされており、他とは異なる特徴となっています。



重要文化財 観音菩薩坐像(楊貴妃観音) 京都・泉涌寺 (1/711より展示)



国宝 附法状 俊仍筆 京都・泉涌寺

かような点に鑑み、この

特集陳列では「日中の交流」「皇室とのつながり」という二つのテーマを柱とし、書跡・絵画・彫刻・工芸品など、さまざまな作品を通じ、泉涌寺の育んだ長い歴史を紹介いたします。貴重な文化財の数々が寺外で公開されるまたとない展覧会となりますので、この機会に多くの方にご覧いただきたく思います。(羽田 聡)



重要文化財 俊仍律師像(1/711より展示) 京都・泉涌寺



東山泉涌律寺図 京都・泉涌寺

# 開館一二〇周年記念 特別展覧会 海北友松

かいほうゆうしょう

平成29年4月11日(火)～5月21日(日)

【平成知新館】

開館一二〇周年を迎える京都国立博物館。この節目の年を記念して、特別展覧会「海北友松」を開催します。

海北友松（一五三三～一六一五）は狩野永徳や長谷川等伯と並び称される桃山画壇の巨匠です。近江浅井家の家臣の家に生まれた彼は、若年を東福寺で過ごしましたが、主家や兄たちが信長に滅ぼされるに及び、還俗して狩野派の門を敲き、画の道に進んだと伝えられています。いま遺る作品のほとんどは狩野派から独立して以後の晩年期（六十歳以降）のもですが、鋭い筆遣いが駆使された気迫溢れる水墨画や詩情豊かな大和絵金碧画などは、ほかの誰の作とも似ていない、まさに友松ならではのものといえましょう。また、友松には石田三成・亀井茲矩ら有力武将に加え、後陽成天皇や八条宮智仁親王、中院通勝・近衛信尹といった天皇家や公家衆、詩文に長じた禅僧たちとの親密な交流がとくに目立ちますが、おそらくそれは彼が連歌や茶の湯に堪能な文化人であったからなのでしょう。

この展覧会では、晩年期の代表作はもとより、数少ない初期作や新発見・初公開の作品、さらに諸人との幅広い交流の跡を物語る書状や文書類などを数多く展示し、知られざる生涯とその画業の全貌に迫ります。おそらく史上最高の質を備えた、最大規模の友松回顧展となることでしょう。どうぞご期待ください。（山本英男）



重要文化財 雲龍図 部分 海北友松筆 京都・建仁寺

## 《京博パスポートの販売終了と 新制度開始のお知らせ》

4月1日より、京博パスポートにかわる新たな制度として、国立博物館メンバーパスの販売を開始します。\*すでにパスポートをお持ちの方については、カードに記載された有効期限まで従来の特典が適用されます。

〈国立博物館メンバーパス〉

【年会費】一般：2000円（税込）

学生：1000円（税込）（要学生証提示）

【特典】

◎京都・奈良・東京・九州の国立博物館の平常展示が何度でも無料でご観覧いただけるほか、特別展覧会を団体料金でご観覧いただけます。

◎京都国立近代美術館・国立国際美術館・国立民族学博物館・京都府京都文化博物館・京都市美術館にカードをご提示いただけますと、平常展示並びに特別展示が団体割引料金でご観覧いただけます。◎公益財団法人京都古文化保存協会が実施する「京都非公開文化財特別拝観」の協力社寺等にカードをご提示いただけますと、拝観料の割引があります（春・秋に実施）（一部、割引対象外の社寺等があります）。

◎京都水族館でカードをご提示いただけますと、水族館入場料金が団体料金に割引されます（付添一名含む）。

\*○印の特典は京都国立博物館発行のカードに限りません。



山水図屏風（左隻） 海北友松筆



重要文化財 海北友松夫妻像 海北友竹賛 海北友雪筆



重要文化財 花卉図屏風（右隻） 海北友松筆 京都・妙心寺



重要文化財 寒山拾得・三酸図屏風（左隻） 海北友松筆 京都・妙心寺

## よみもの

### あの鐘を鳴らすのは

京都国立博物館企画室長 伊藤信二

四月に京都国立博物館に赴任してから、はや年の瀬と新年を迎えようとしている。過日、京博では長い伝統を有する「土曜講座」にデビューした。私はこれまでの研究員生活の中で、「梵鐘」に接する機会を多く得、特に九州国立博物館時代の四年五か月間に、国宝二点、重要文化財七点を含む十二点の梵鐘の展示に携わった。中でも平成二十二年（二〇一〇）、兄弟鐘として名高い京都・妙心寺鐘と太宰府・観世音寺の国宝鐘（いずれも飛鳥時代七世紀末期）を並べて展示、のみならず展覧会期間中の二日間に「鳴鐘会」と題し、互いのご所蔵者が交互に鐘を撞き音色を競演する、恐らく史上初の試みに関わることができた。この鳴鐘会の様子をVTRに収め、当時展示会場で流していたものをDVDに落とし映像と音を、話の最後に披露する段取りであった。なので話の内容も、自身の梵鐘の展示経験とともに、音をテーマの一つに取り上げた。「今日もお寺の鐘が鳴る」と副題を付けた所以である。

音源ももう少し必要かと、二か所で採集することとした。一つは江戸の市中に時を告げ、今も日に三回撞かれる上野の寛永寺の「時の鐘」（現在の鐘は天明七年（一七八七）製造されたもの）。東京出張の仕事を終えて上野公園に向く。場所は西洋料理店「精養軒」のお隣。夏の終わりの夕間暮れ、ツクツクホウシが今を盛りと大合唱、金曜のこととて店前の人通りは多い。ボイスレコーダーの中で時の鐘の音色は優しく、セミと人々の声にまぎれがちであった。京都に戻った私は翌土曜日の夜、奈良に向かった。目当ては「奈良太郎」の別称でも有名な、東大寺の国宝の大鐘（奈良時代八世紀）である（近世初期に作られた豊国神社、そして知恩院の大鐘は、この奈良太郎の大きさと形式を襲っている）。上野とはうって代わり、鐘樓の辺りは秋虫がすざいっている。二十時きっかり、暗闇の中に奈良太郎の大音響が何度も空気を震わせた。さて講演会ではこれらの音をお聞きいただいた後、いよいよ兄弟鐘の競演を披露する場面となった。ところが、何度も事前リハーサルを行っていたにも関わらず、ディスクドライブが不調をきたし、当該の映像と音をお届けすることができなかったのだ。誠に慚愧にたえない。年明けの早い時期に、リベンジを果たさせていただきたいと思う次第である。

## 土曜講座

- 1月7日「若冲の屏風に登場する動物たち」◆ 京都市立動物園副園長 坂本英房氏
- 1月14日「十二類絵巻の魅力—言葉と絵と動物たち—」※  
京都国立博物館研究員 井並林太郎
- 1月21日「泉涌寺ゆかりの仏像」※※ 京都国立博物館連携協力室長 淺湊毅
- 1月28日「俊仍律師と泉涌寺」※※ 泉涌寺心照殿学芸員 西谷功氏
- 2月4日「涅槃図を楽しむ」 京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊
- 2月11日「蔵王権現はなぜ数多く伝わるのか—三徳山と金峯山の事例から—」※  
大阪大学大学院文学研究科教授 藤岡穰氏
- 2月18日「梵鐘—今日もお寺の鐘がなる2」 京都国立博物館企画室長 伊藤信二
- 2月25日「文化財の複製と教育普及」 京都国立博物館研究員 水谷亜希
- 3月4日「雛人形の美—京の雅と江戸の粋—」※※ 吉徳資料室 室長 林直輝氏
- 3月11日「万里小路宣房の法華経」 京都国立博物館主任研究員 羽田聡
- ◆…特集陳列「伊藤若冲」関連講座  
※…新春特集陳列「とりつくし」関連講座 ※…特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」関連講座  
※…特別公開「鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」関連講座 ※…特集陳列「雛まつりと人形」関連講座  
※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料（ただし当日の観覧券等が必要）。  
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

## イベント

- 《開館120周年記念 Daiwa Sakura Aid presents カウントダウン》  
日時：2016年12月31日(土) 午後9時～2017年1月1日(日) 午前1時30分  
(入館は午前1時まで)
- 場所：庭園 出演：ジュスカグランペールほか 料金：無料(ただし当日の観覧券等が必要)
- 《新春イベント》※以下のイベントはすべて無料(ただし当日の観覧券等が必要)
- 新春・京博こと始め2017  
京都国立博物館館長・佐々木丞平と現代美術家 山口晃氏の対談をお届けします。  
日時：1月2日(月・休) 午後12時30分開演(正午開場) 場所：平成知新館 講堂  
※当日、午前11時より平成知新館1階にて整理券を配布します。
- ヒジャミュージッククラブ新春コンサート2017  
日時：1月2日(月・休) 午後3時30分開演(午後3時開場) 場所：平成知新館 講堂
- 親子で餅つき大会  
日時：1月3日(火) 午前10時～11時30分 場所：庭園 ※荒天中止 ※数に限りがあります。
- 芸舞妓 春の舞  
日時：1月8日(日) 午後1時～、2時～2回公演 ※各回約30分  
場所：平成知新館グランドロビー
- 《京都・らくご博物館 冬》  
日時：1月27日(金) 18:00 開場 18:30 開演  
会場：平成知新館 講堂  
出演：桂そうば 桂ちようば 桂出丸 中入 桂わかば 桂ごこば  
入場料：3100円(税込)/キャンパスメンバーズ2500円(税込)(全席指定・平成知新館名品ギャラリー観覧券付)  
※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。  
申し込み先：お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 ※祝日は除く) WEB/ <http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【冬】申し込み画面

## 《京キャラ博・京都ほんまもん祭》

- 日時：3月18日(土) 場所：庭園 ※雨天の場合は平成知新館講堂にて開催  
料金：無料(当日は、平成知新館名品ギャラリーも無料でご覧いただけます)

## これからの展覧会

- ◆開館120周年記念 特別展覧会 海北友松  
2017年4月11日(火)～5月21日(日)

## 国立博物館の展覧会

- 【東京国立博物館】  
特別展「春日大社 千年の至宝」  
2017年1月17日(火)～3月12日(日)
- 【奈良国立博物館】  
特別陳列「お水取り」  
2017年2月7日(火)～3月14日(火)
- 【九州国立博物館】  
特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」  
2017年1月1日(日・祝)～3月5日(日)

## ◆ 明治古都館休館のお知らせ ◆

京都国立博物館では、埋蔵文化財調査等のため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【今後の名品ギャラリー部分開館および休止の予定】

名品ギャラリー部分開館：3月14日(火)～3月20日(月・祝)  
2F-1～5、1F-2 展示室(1F-1・3～6、3Fは閉室)  
名品ギャラリー休止期間：3月22日(水)～4月9日(日)  
庭園のみ開館：3月22日(水)～4月9日(日)

## ご利用案内

【開館時間】9:30～17:00

- ※金・土曜日は20:00まで閉館
- ※入館は閉館の30分前まで

【観覧料】一般520円(410円)、大学生260円(210円)  
<3月14日～3月20日>  
一般260円(210円)、大学生130円(110円)  
\*( )内は団体20名以上  
※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料  
<3月22日～4月9日>  
一般260円(210円)にて庭園をご覧いただけます  
(庭園ガイド冊子付き)。  
\*( )内は団体20名以上  
※大学生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館。  
ただし、1月2日から9日は続けて開館)  
2016年12月26日～2017年1月1日

## アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ  
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分  
近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分  
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分  
阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分  
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527  
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)  
ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2017年1月1日 デザイン 谷なつ子  
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社  
ライブアートブックス

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM